



花火ができるまで



華やかに打ちあがる花火は、職人さんが一つ一つ地道な手作業によって作られています。ここでは、実際の作業現場から、花火が打ちあがるまでの工程を紹介します。

一 火薬作り・星掛け



花火の色は原材料によって変わり、数種類の原材料を配合して火薬を作っています。その後、配合工程でできた火薬を丸い球状の形(星)に成型していきます。

二 玉詰め・玉合わせ



厚紙をプレスして作った玉皮に、星を並べていき、真ん中に割薬を詰めて、合わせます。丸く美しい形の花火を打ち上げるためには、玉の中のバランスが重要になります。

三 玉貼り・天日干し



玉詰めされた玉皮にクラフト紙を何重にも上貼りしていく工程です。クラフト紙の厚みや貼り具合が花火の大きさや形に大きく影響します。

四 花火玉完成



完成した花火玉。「星」「詰め」「張り」の3つのバランスで大きな花が開くため、それぞれの職人が次にバトンをつないでいくことで美しい花火が完成します。

五 筒場(打上現場)



筒場と呼ばれる花火の打上現場での準備は、花火大会当日に行われます。花火の打ち上げは手作業での点火ではなく、安全のため電気点火遠隔操作を採用しています。この日は雨を想定しながらの作業となり、筒の上からビニールを被せて雨天対策がされました。

六 花火打ち上げ



打ち上がるまで実際の仕上がりが見えない中で配合を決め、何か月もかけて星を作り、丁寧に詰めてさらに数週間かけて仕上げていきます。わずか一瞬の花火が生まれるまでに、職人さんの手間ひまと長い年月がかけられています。